令和８年度　　宇都宮市立五代小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち，知性と創造性に富む実践力のある子供の育成

自分で考え　進んで学ぶ子（自主・創造）　　明るく　思いやりのある子（自立・共生）

健康で　ねばり強い子（健康・意志）　　礼儀正しく　責任を果たす子(礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく　やさしく　たくましく　礼儀正しい　五代の子＞

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が，教職員が，保護者が，地域の人々が，誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

（１）子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校

（２）知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校

（３）教職員が専門性を発揮し，チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校

（４）児童・保護者・地域との信頼関係を築き，家庭や地域の教育力を生かす学校

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

（１）〇主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに，各種学力調査問題を活用しながら，基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。

（２）「宮っ子心の教育」を推進し，個に応じた支援及び認め励ます教育の充実を図りながら，児童にとって居がいのある温かい雰囲気の学校経営，学級経営に努める。

（３）〇心身ともに健康で安全な生活を送るために，体力向上や保健教育，食育，安全教育に関する指導の充実を図る。

（４）信頼される教職員を目指して個々の資質・能力の向上を図るとともに，教職員組織のチーム力を高め，働き方改革を推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】「つなげよう学び　きたえよう心と体　共にのびようＷＧＳ学校園」

９年間の学校教育にかかわる教職員が，その思いと責任を共有し，連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

４　教育課程編成の方針

（１）教育関係諸法規・法令や新学習指導要領及び県，市の教育行政の方針等を踏まえる。

（２）どのように学びどのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。

（３）現代的な課題（SDGｓ，デジタルシティズンシップ等）に対応できる資質能力を育成するため，教科等横断的な視点で関連付けを図る。

（４）児童の発達の支援，家庭や地域との連携・協働を大切にする。

（５）持続可能な社会の創り手となるよう，児童が自分のよさや可能性に気付き自己肯定感を育むことができるよう工夫する。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

（１）学校運営

〇児童が主体的に学習に取り組めるよう授業づくりを工夫するとともに，学び合い活動の充実を図ることによって，深い学びにつなげられるようにする。

・学級活動や児童会活動，学校行事等を通して，児童の主体的な取組と協働を支援し，達成感や充実感を味わわせることにより，自己有用感や自己肯定感の高揚を図る。

・特別支援教育への理解を深め，全校体制で支援の充実に努める。（一人一人の教育的ニーズの把握，校内委員会の充実，医療的ケア支援員等校内関係スタッフとの連携と効果的な活用）

・学校の重点課題を明確にし，課題解決に向けた取組を効果的，効率的に実施できるよう教職員の意識改革と協働的な体制づくりを進めていく。また，教職員が児童と向き合う時間を確保できるよう業務を精選するとともに，保護者や地域に向け，学校の働き方改革について情報を発信し，理解を求めていく。

（２）学習指導

〇基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み，課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

・「宇都宮モデル」を活用し，精選した目当てを示し，自ら考え，共に学び合う時間を意図的に組み入れ，思考力，判断力，表現力の育成を図る。

・基本的な学習態度・学習技能の習得を基に，一人一人に応じたきめ細かな指導を展開し，基礎・基本の確実な定着を図る。（少人数指導，かがやきルームの活用，朝の学習の効果的な運用）

・学年に応じた家庭学習の内容や進め方を示し，児童が自主的，主体的に家庭学習に取り組めるよう支援する。

・１人１台端末を活用した授業改善を継続するとともにＡＩドリル等を活用した学習の基盤となる能力の向上，デジタルシティズンシップの育成に取り組む。

（３）児童生徒指導

〇児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ，自己有用感や規範意識，たくましさを涵養する。（帰属意識の高い学級づくり）

・自ら課題に立ち向かい，思いやりと協働を実行し，自他共に成長できる学習集団の雰囲気をつくることで，学力向上の基盤となるようにする。

（４）健康（保健安全・食育）・体力

〇地域学校園の児童生徒の実態を把握，分析したうえで，義務教育９年間を通して，健康に関する自己管理能力や体力の向上，安全に配慮し行動できる力，望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。

・自らの健康について関心をもち，健康の保持増進に努めるための判断や行動ができる実践力を養うために，担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導にあたる。

・交通ルールの順守や自転車乗車時のヘルメット着用について日常的に指導し，交通安全の意識の高まりを実践につなげられるようにする。

６　自己評価　A1～A21は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示とともに，「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ，各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。 ・個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では，安心して自分の考えを表現できるような環境を整えていく。また，相手に分かりやすく伝えたり，自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう，自分の考えを伝える力の育成に努める。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 保護者アンケート「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・帰りの会や学級活動を通して，児童同士が感謝の気持ちを伝え合う活動を常時行うことで，思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び，学校で行われる全ての活動において，道徳教育の充実を図るとともに，児童が直面した諸問題について，学級または学年で望ましい行動を話し合い，実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく，全教職員で意図的，積極的に児童の優しさや思いやりを認め，褒めていく。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・クラス全体の学習のめあてだけでなく，個々が自分の目標を設定し，目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を支援していくことで，達成感を高めていけるようにする。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
１－（３）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童アンケート「私は，健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・汗の始末，手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用，前向き給食等）を通して，新型コロナ感染症やインフルエンザ対策の指導を徹底させる。また，給食後の歯磨き指導を行い，むし歯予防に努める。 ・清潔なハンカチや靴下，下着を身に付けるように指導を続け，学年だよりや学級懇談会を通して家庭に周知し，児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・電話連絡やさくら連絡網，クラスルーム機能も活用し，児童の健康状態の把握に努め，気になる児童には個別に指導を行う。 ・集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用，交通安全教室，不審者侵入想定避難訓練，児童引渡し訓練を通して，自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり，地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
１－（４）将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，自分の良さや考えを生かしたり，周りと協力し合ったりして，進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・定期的に自己の生活を振り返ることで，自己理解を深め，自分のよさに気付かせたり，成長を実感させたりする。 ・協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで，集団で協力することのよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動，行事等において，児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し，児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等，児童一人一人のよさを認め励ましていく。特に全校児童の前で表彰する機会を増やしていく。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

2－（1） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，外国語活動(英語）の授業やALTとの交流の際に，英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりＡＬＴと協力したりしながら，児童が意欲的に取り組める活動を取り入れ，さらなるコミュニケーション能力の向上を継続的に図る。 ・ＡＬＴと事前に打ち合わせを重ねるなどして，指導力の向上を図る。 ・給食時，ＡＬＴと代表児童との英語の放送をすることで，英語に触れる機会を設ける。 ・給食会食でＡＬＴとの交流を図る。・	Ａ	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，宇都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・今年度の具体策を確実に実施するとともに，さらに「良さ」を紹介していく機会を増やし，郷土への思いを高めていく。 ・学校での取組を保護者や地域の方に知っていただく機会を増やして連携していく。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
2－（2） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童アンケート「私は，パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・目的に応じてＩＣＴ機器や図書等を効果的に活用するなど，情報活用能力を高める活動を取り入れていく。 ・様々な教科等で，積極的に図書室を利用し，また，端末の併用により相乗効果を生み出す活用法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理し，活用できるようにするとともに，巡回図書も積極的に活用していく。 ・デジタルシティズンシップ教育に関する職員研修の機会を設け，職員も学びを広げ，指導に役立てていく。 ・授業参観等で積極的にICT機器の活用をするようにする。 ・学校ホームページや学年だよりで，ＩＣＴ機器を使っている様子を発信する。	Ａ	【達成状況】 【次年度の方針】
2－（3） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「私は,『持続可能な社会』について，関心をもっている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・様々な教科でＳＤＧｓについて取り上げるようにするとともに，児童会活動や給食等で児童の具体的な実践も行っていくなど具体策を続けていくことで，ごみの減量等，学年に合わせた形で考えさせられるよう支援していく。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

3－（1） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答 95%以上	・学年，ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い，担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう，相談しやすい雰囲気を醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の情報を確実に把握し，次年度への担任をはじめとする当該児童の関係者にスムーズに引継ぎを行えるシステムを構築する。 ・支援を要する児童の実態を把握し，長期目標と，それを達成するための短期目標を定め，当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し共有することで，担任以外の教職員が対応することができるようにしたり，次年度への引継ぎがよりスムーズに進めたりできるようにする。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3－（2） いじめ・不登校対策の充実	A11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は，いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上 保護者アンケート「学校は，いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・4 月の学級開きから，年間を通して継続して指導することで，学級や学校にいじめを許さない雰囲気を醸成し，いじめを予防していく。 ・児童だけでなく，保護者との信頼関係の構築に努め，児童一人一人が安心して学校生活が送れるように協力体制を築いていく。 ・いじめに関するアンケート，教育相談を定期的に実施し，いじめの早期発見に努める。また，児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・児童の様子や変化をよく観察し，気になる児童の様子は学年や児童指導主任，管理職と共有し，さらに全職員で共通理解を図る。 ・いじめゼロ強調月間において，児童会主体の活動を行うことで，児童の意識を高めていく。体育館で実施してもよい。 ・学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信することをさらに充実させていく。より積極的に閲覧を呼び掛けるなど，保護者や地域とも連携して取り組めるようにする。 ・読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり，人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど，自他の人権への関心を高める。 ・職員研修の充実を図り，いじめや人権への理解を深め，指導力向上に努める。 ・最後の授業参観時に，マネジメントの結果を公表したりやいじめ対応についての実態を周知したりすることで，関心をもってもらう。	A	【達成状況】 【次年度の方針】

	A12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者アンケート「教職員は，一人一人の児童を大切にし，児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・児童一人一人のよさが発揮され，居がいのあるクラスづくりを行い，児童の自己肯定感を高めていく。 ・学級活動や道徳科，帰りの会等，児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで，温かい学級の雰囲気を醸成していく。 ・学校生活における児童の頑張りやよさ，取り組み等を保護者に伝えていくことで，児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・一人一人の児童に対し，教育的愛情をもって接し，認め励ましていく。 ・気になる児童には，早期に声掛けや面談を行う。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
3－（3）外国人児童生徒等への適応支援の充実 3－（4）多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は，困ったときに相談に乗ってくれたり，問題を解決しようとしたりして，私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・学級経営を中心として，授業や特別活動，なかよし班活動等において，児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し，「他者とのかかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 〇小中一貫教育実施に伴い，乗り入れ授業や進学先中学校訪問，児童指導連絡会等，児童生徒の健全育成のための方策を中学校と連携して考え，実践する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4－（1）教職員の資質・能力の向上	A14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく，一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上	・職員研修や授業研究の機会を充実させ，教員間での学び合いを深めることで，指導力（授業力）を向上させる。 ・児童の実態に合わせ，個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・児童の学びが継続していくような学習の進め方を統一することで，学年や担任が代わっても授業形態が変わらないようにする。 ・きめ細やかな学習指導を行うために，教職員の情報のやり取りを密にすることで児童理解を深め，教材研究に生かす。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4－（2）チーム力の向上	A15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・学年・ブロック，校務分掌等で課題を共有し，ＰＤＣＡサイクルを位置づけた活用計画や運用計画に基づいた具体策を引き続き確実に実施していくとともに，一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
4－（3）学校における働き方改革の推進	A16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「私は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・学期末特別日課の導入や電話対応時間の短縮など取り組んだが，さらに行事等の精選や，日課を工夫するなど改善を図り，業務の効率化を推進する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ17　児童と向き合う時間を確保できている。 【数値指標】 教職員アンケート「児童と向き合う時間が確保できている」 ⇒ 肯定的回答 85%以上	・学校運営における業務のスクラップ・アンド・ビルド（精選）を進め、教職員が児童と向き合う時間を直接生み出すための意識改革を促す。 ・学年組織等の連携を強化し、授業準備の効率化や配慮児童への対応を組織的に行うことで、担任一人の負担軽減を図る。 ・１人１台端末や校務用パソコン、さくら連絡網（デジタルツール）を計画的・効果的に活用し、会議の精選や情報共有のスピード化・省力化を図る。	Ａ	【達成状況】 【次年度の方針】
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ18　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は，地域学校園の小学生や中学生，先生と，授業や行事，掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	○児童に直接関わる乗り入れ授業や中学校訪問だけでなく，教科部会や授業参観の機会を設けることで，小中学校の職員の相互理解をさらに深める。 ○小中合同あいさつ運動等，今後も児童生徒の交流がさらに深まるような取組を計画するとともに，ＨＰなどを積極的に周知する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ19　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し，楽しい。」 ⇒肯定的回答 85%以上 地域住民アンケート「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。（魅力ある学校づくり地域協議会，学校支援ボランティア，企業等，地域の教育力を生かした教育活動など）」 ⇒肯定的回答 80%以上	・登下校の見守り，図書ボランティア，作品ボランティア，学習支援ボランティア，町探検などの活動を充実させ，地域の方々や関係機関と連携を深めながら内容を工夫し，年間を通して活動を充実させていく。 ・五代っ子フェスタ・五代夏祭りなど子供や保護者，地域の方々が楽しめる行事（地域の活動）をさらに活性化していく。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ20　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・月に１度の安全点検や日常的な点検を実施していく。 ・日常的に各教室や廊下，準備室，倉庫などの整理整頓に努め，安全に配慮する。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ21　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員アンケート「私は，授業（授業準備を含む）や業務に，各種システムやツール※を積極的に活用している。 ※学校用グループウェア，校務支援システム，デジタル連絡ツールなど ⇒肯定的回答 80%以上	・校務用パソコンや・１人１台端末の発達段階に応じた指導方法を継続的に研修していくことで，学習指導に生かしていく。 ・ＩＣＴ支援員との連携を密に行うことで，学習指導や業務の効率化に生かしていく。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・全教職員で，挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において，挨拶について話し合い，称賛及び指導を繰り返し行い，挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し，率先して挨拶をすることで，挨拶を返したり，自分から挨拶したりできるよう全校体制で推進する。 ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり，挨拶を啓発する内容を載せたりすることで，家庭との連携を図る。 ・児童会や生活委員会などによる挨拶運動をより充実させていく。低学年でも挨拶をしたくなるような取組を考える。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，きまりやマナーを守って，生活をしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・「五代の子の一日」は，年度始めに各家庭に配付し，ルールの確認と意識付けを図るとともに，節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し，児童一人一人が自身の行動を振り返り，目に見える形で行えるよう実施する。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて，児童理解を深めるとともに，組織的に対応できるようにして指導の徹底を図っていく。 〇五代小学校，新田小学校，若松原中学校の 児童指導主任，生徒指導主事を中心に情報交換を行い，学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・ＨＰや便り等を活用して，児童の様子を保護者や地域に発信していく。 ・交通安全のマナーが守れていない児童が多いので（ヘルメット無着用，２列以上で歩く，信号無視など），交通ルールに関する指導を徹底していく。	Ｂ	【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ３　児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，楽しい学校生活を送っている。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・学業指導に力を入れ，児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に，計画的に教育相談を行い，児童一人一人を受容的な態度で受け止め，児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して，学級満足度調査（Ｑ-Ｕテスト）の結果を職員で検討し，検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い，学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い，協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また，担任が一人で抱え込まないように，必要に応じてケース会議を開き，組織的に対応をしていく。 ・ＩＣＴ機器や学習端末を活用するなど，活動の形態を工夫し，児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで，児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 ・縦割り班活動・なかよしタイムなど異学年交流をより充実させていく。 ・学級活動の授業において，構成的グループエンカウンタを取り入れることで，自己肯定感を高めたり対人関係スキルを学んだりする。		
	Ｂ４　児童は，進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで，進んで本を読んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・イベントや取り組みを精選し，児童がより本に興味がもてるような活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し，自分の読書を振り返ることができるようにすることで，読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では，学年の「必読図書」の読書を奨励し，時間までに「物語」の本を選び，着席するようにする。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど，児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し，いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年２回実施し，家庭での読書習慣の形成の一助とする。 ・図書室のクラスルームを立ち上げて，図書室の情報を発信する。	Ｂ	
	Ｂ５　学校は，学校全体で，家庭での学習習慣の形成を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は，家庭で学習する習慣ができている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・年２回家庭学習強化週間を実施し，家庭と連携して児童の学習意欲を高め，家庭学習の習慣化を図っていく。 ・児童が主体的に学習に取り組めるように具体的な内容や方法を示したり，手本となる取り組みを伝えたりしていき，家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また，その様子を保護者にも伝える	Ｂ	

	Ｂ６　教職員は，児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。 【数値目標】 児童アンケート「先生は，自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・各教科等において，児童が興味関心をもてる学習課題を設定し，主体的に学習に取り組み，自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ，認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで，基礎学力の土台づくりをしていく。 ・１人１台端末，ホワイトボード等を効果的に使い，「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。 ・ＡＩドリルを活用し，児童が主体的に学習に取り組めるよう支援する。	Ｂ	
	Ｂ７　学校は，道徳教育や授業，様々な活動等を通して「心の教育」を推進し，豊かな人間性を育てている。 【数値目標】 児童アンケート「学校（高学年：道徳や授業，体験活動など）は，いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上	・道徳の授業では，児童の発達段階に応じた心に響く道徳教育の充実を図る。 ・道徳教育だけではなく，様々な活動を通して，児童の発達段階に応じた心の教育を推進していく。 ・幼保小連携活動は，連携を密にし，活動の意義を踏まえて活動内容を検討し，内容を精選する。 ・なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では，助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう，活動内容を工夫したり，学年に応じた指導を行ったりしていく。	Ｂ	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。